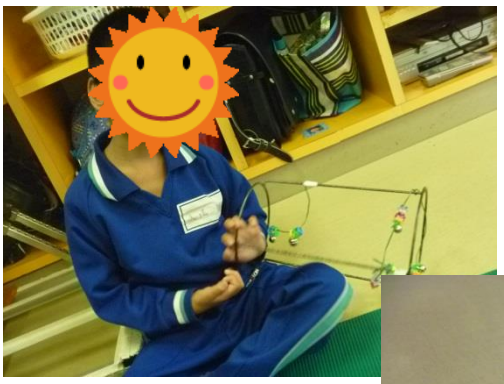
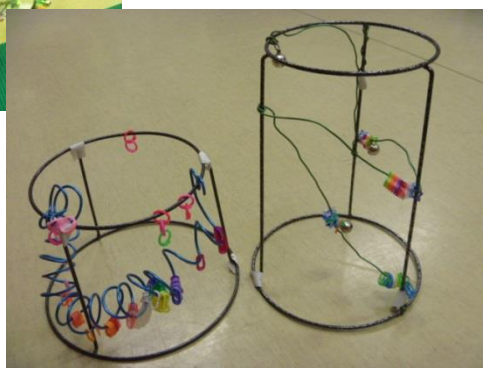
【教材・教具名】 座位保持おもちゃ	【教科・領域】 自立活動	【対象】 小学部３年（ＯＲくん）

【ねらい】
・おもちゃで遊ぶ活動を通して自分の意思で座った姿勢を保持することができる

〇教材の使い方
・おもちゃに向かって座位を保ちながら音や感触を楽しむ





〇工夫点
・遊ぶ意欲が持続するよう，本児の好きな素材である金具や針金，鈴などを用いた
・本児が座った時におもちゃが視界に入り，座位を保持するのに適切な高さのあるものにした

〇効果・改善点
・寝転んでいる状態でも近くに置くとすぐに起き上がって，遊び始めることが多かった
・自由時間の間，ずっと自ら座位（正座やあぐら座）を保ちながら遊ぶことができた
・外枠を握って終始振り回し，鈴などの音を鳴らしながら遊び混むことができた
・振り回しているうちに手からそれて遠くに転がった際には自分で姿勢を変えながら手を伸ばし，おもちゃを獲得しようとする様子もみられた
・時々，足が挟まって身動きがとれなくなるという課題もあるが，本児は困っている素振りを見せず遊び続けることが多かった

【教材・教具名】 場所お知らせグッズ	【教科・領域】 自立活動	【対象】 小学部５年（Ａさん，Ｂさん）

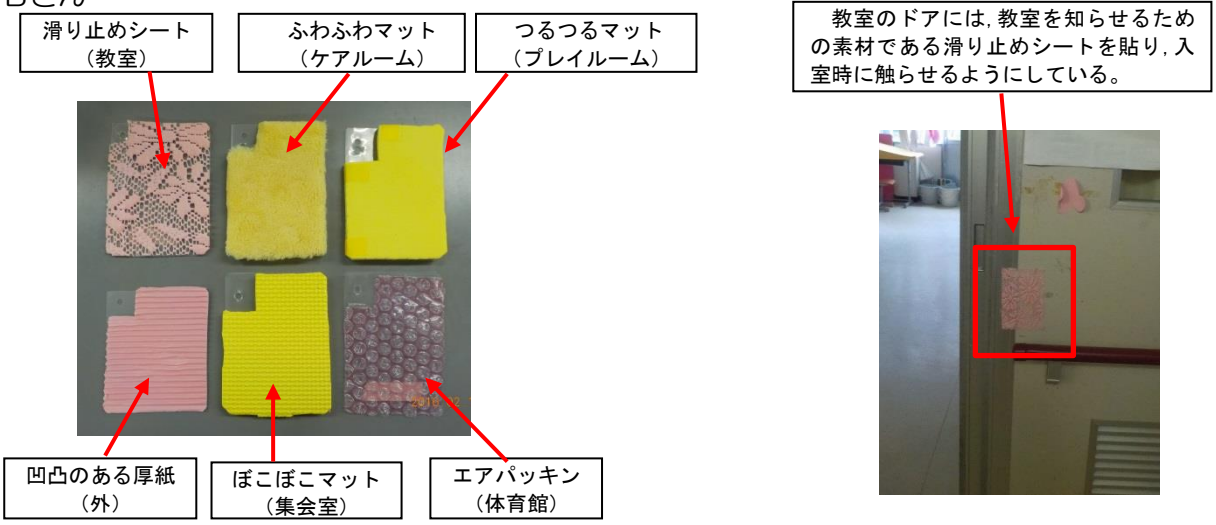
【ねらい】

・視覚障害のある児達に活動の見通しをもたせるために，この教具を作成した。本児達は視覚情報がない分，聴覚や触覚からの刺激を強く受け，急な接触や音に驚いて発作を起こすことが多くある。「次は～に行きます」「ここは～です」などの声掛けをしながら，異なる素材を触らせることにより，次に行く場所やその場で起こる接触や音を対応させ予期させることができると考える。

〇教材の使い方

Ａさん

Ｂさん



〇工夫点

・本児達の好きな素材や触り心地が良い物を使用するようにした。

・本児達の身のまわりにある物や長期間に渡って使用できる物，破損時に交換しやすい物を使用した。

〇効果・改善点

・本グッズに触れさせると指先を動かしたり，目を開く姿が見られたりした。また，驚いての発作が減った。

・本グッズと香り，音などを併用すると更に場所との結びつきが得られると考える。

・本児達の移動先に，場所を確認するグッズ（手元にある物と同様の物）があればよかった。また，二人の児童のグッズの素材を統一すればよかった。

【教材・教具名】 童謡絵本、ウインドチャイム （市販教材の活用）	【教科・領域】 自立活動	【対象】 小学部　５年生

【ねらい】
・プロンボードに乗りながら、歌やウインドチャイムの音色を楽しめるようにすることで、立位姿勢をとる活動への意欲を引きだす。

〇教材の使い方

〇本児は歌やウインドチャイム（金属音）がとても好きなので、どちらも楽しくプロンボードに乗ることができるように使用している。

〇童謡絵本は本児の手が届く所に置き、偶然手が当たると歌が流れるようにする。

〇ウインドチャイムは、プロンボードが動くたびに音が鳴るようぶら下げる。

〇工夫点
・そっと触れるだけで音が出るものを使用した。
・本児（プロンボード）が動くときのみ音が出るようにした。
・本児の好きなこと（音）を使用した。

〇効果・改善点
・本児がプロンボードに乗り、歌やウインドチャイムの音を聞いたりしながら笑顔が見られた。
・ウインドチャイムを顔の近くに下げられるとよかった。

【教材・教具名】	【教科・領域】	【対象】
ふれあい歌遊び	自立活動	小学部訪問児童・重度重複障害児童

【ねらい】

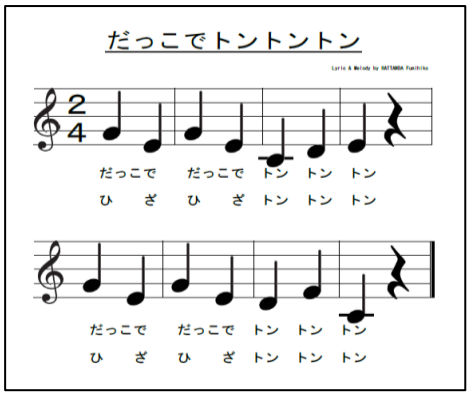
◯教師からの歌と体に触れてもらう働き掛けを受け入れて，リラックスできる。

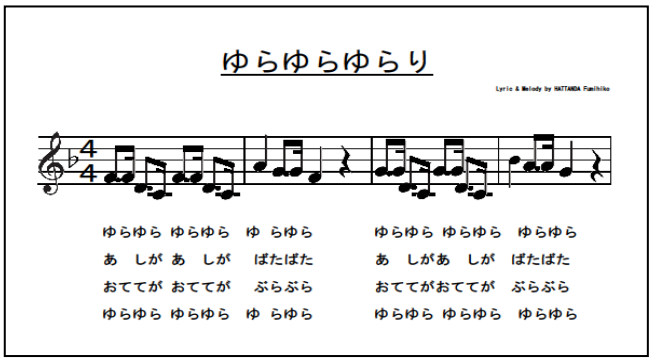
◯抱っこされることや優しく揺らされることを楽しむことができる。

〇教材の使い方

「抱っこでトントントン」

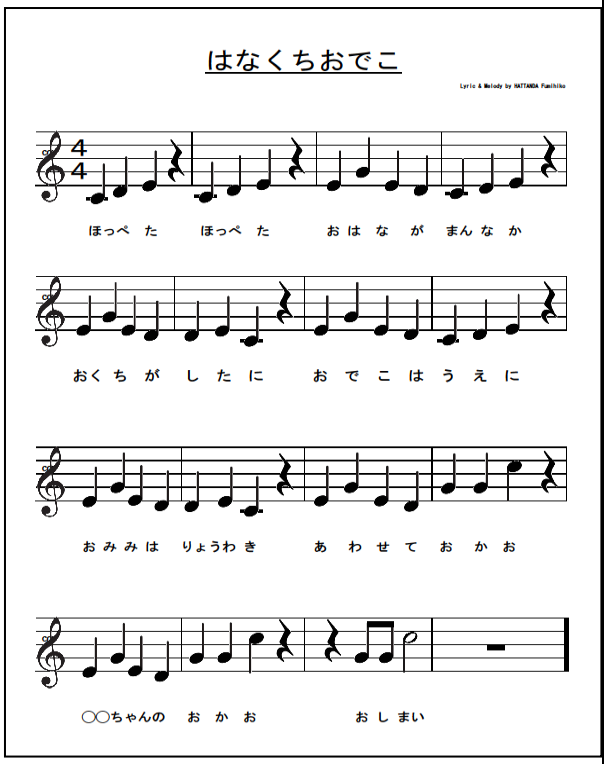
・抱っこした姿勢で，歌いながら子どもの体を揺らし，同時にタッピングしたり指で優しくつついたり触れたりする。「だっこで」の部分は本人が触られてうれしい部分を優しくタップしながら「トントントン」と歌う。その後「ひざ，もも，こし，おなか」など歌い掛けながらタップする。





・顔バージョンでは，「あご，はな，まゆげ，あたま」などに触れながら歌い掛けていく。

「はなくちおでこ」

・抱っこした姿勢のまま，顔に触れる歌遊び。指導者は，じっくりと向き合って歌いながら「頬，鼻，口，額」に触れることで気持ち良さを分かち合う。教師と児童の共感的な空間を作るように努める。

〇工夫点

・体重の重い児童の場合は，指導者の健康を守るために無理はしないようにする。

・抱っこが難しい児童は，背中に片手を回して支えながら実施すると，臥位よりも意識を教師側に向けてくれた。

・顔に過敏がある児童の場合，段階を追って過敏を解消するなど工夫が必要。

〇効果・改善点

・抱っこするだけでも笑顔になってくれて，「抱っこでトントントン」の歌を歌いながら揺らし始めると，気持ちよさそうな表情になってくれた。

・第三弾として「ゆらゆらゆらり」などを創作し実施したが，単発で行うよりもメドレーで遊ぶことでより楽しい活動にすることができるようになった。

【教材・教具名】	【教科・領域】	【対象】
角度調節板，ぱっちん棒	自立活動	中学部２年Ｙさん

【ねらい】

・何かを製作する活動において，描画材を自分で持ち，画面を見ながら，手を動かして書く（描く）ことで，活動に意識的に参加する。

〇教材の使い方

ぱっちん棒

先端の洗濯バサミに筆やクレヨンなどを挟み，
下の部分を持って動かす。腕の可動域が狭くても，
大きな範囲に筆を動かすことができる。

角度調節板

後ろにある金具で，台を色々な角度に調節することができる。
板の部分に紙などを固定し，そこに書く。
写真や絵を鑑賞することもできる。

書初めをしました

２つの補助具を使い，書初めに挑戦。
自分の書いた文字をしっかりと見つめることができました。

〇工夫点

ぱっちん棒：挟むものを変えられるので，色も多種類使うことができる。持ち手にスポンジを巻いてあるので，滑りにくく，握力が弱くても，比較的長い時間握ることができる

角度調節板：腕の可動域や，視線の高さに合わせて，角度が細かく調節できる。

〇効果・改善点

・制作活動に積極的に参加することができた。
・見やすい所に画面があるため，自分から視線をそちらに向け，教師の声掛けに応えて手を動かそうとするなど，活動に興味を持つことができた。
・大人の力ではなく，本人が動かそうとする力を生かしながら制作することができた。

【教材・教具名】	【教科・領域】	【対象】
避難器具を利用した床面での姿勢保持具	自立活動	中学部１年訪問生徒

【ねらい】
・車椅子から降りて，床面で姿勢保持をすることができる。
・友だちと一緒の目線で一緒の活動を楽しむことができる。

〇教材の使い方

① きっかけ
スクーリングで，光遊びをする際に，「友だちと同じように床で活動したい」ということで，布団の上に横になった。

② 学年クリスマス会では
学年の友だちが一クラスに入ってのクリスマス会をするために，机等を出してカーペットに座っての場の設定にした。訪問生徒も床に下ろすが，「布団の上では，みんなの顔が見えない。」との課題が浮かび上がった。

座椅子のついた避難具は，中学部訪問生徒が，緊急避難時に用いるためのものである。職員室階段付近に立てかけてある。

③そこで，避難器具を利用すれば･･･
メリット１)避難器具なので，ベルトで生徒の体を固定できる。
メリット２)座面の角度が調整でき，友達と対面できる。

〇工夫１
呼吸器の器具を立てるためのポール

〇工夫２：座椅子固定のためのブロック

〇効果・改善点
・友達とお互いの顔の表情が分かり，車いすに座っている時よりも身近に感じられるようになった。
・座椅子の幅が７０ｃｍほどで両手がはみ出したので，両サイドにもブロックを置くとよかった。

【教材・教具名】 ポットンボトル	【教科・領域】 自立活動	【対象】 高１Ｙくん

【ねらい】

トレイの中にある木製ボール（直径３ｃｍくらい）を指でつまみ，ペットボトル（口を広めに加工してある物）に入れる教材で，ボールをつまむ時とペットボトルに入れるときに，手もとや指先を注視しながら作業を行うことができる。

〇教材の使い方

①木製ボールを容器に１０個ほど入れる。（容器はボールがこぼれ落ちない物であれば可）

②口を加工してあるペットボトルをセットする。

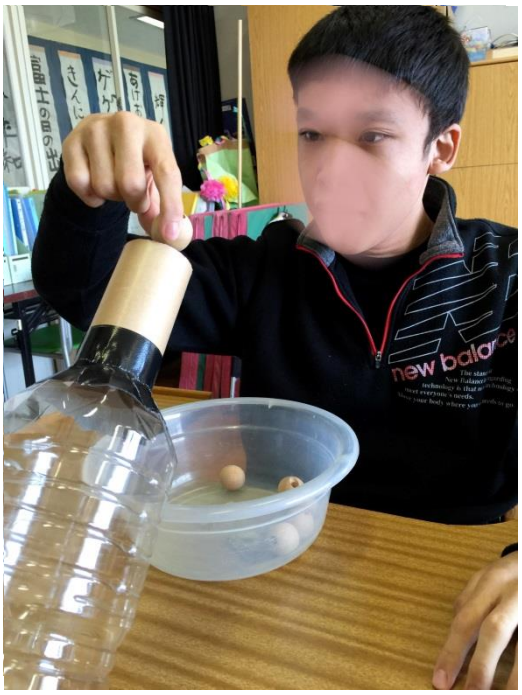
・ペットボトルは，立てておいてもよいが，斜めにしてやると作業がしやすい。

③対象児に声掛けまたは示範して，ボールをボトルに入れることを伝える

・対象児の腕を支えてコントロールし，ボールを入れる動作を導く。

・対象児がボールをつまんで腕を動かしたら，教師がペットボトルを動かして，ボール を入れやすくするなど，様子を見ながら，支援の方法を考え，段階的に行うようにする。

④対象児が，ボールを上手につまむことができたときと，ペットボトルの口にボールを入れることができたときには，おおいに賞賛する。



〇工夫点

・ペットボトルの口の部分を切り，筒状の物を取り付け，ボールがはいりやすくする。

〇改善点

・ボールの替わりに，ペットボトルのキャップを利用してもよい。ボールと違って，つまみやすさがあるし，色別に入れるなど，別のねらいも合わせて設定できる。

〇効果

・操作性の向上には繰り返しの動作が必要であるが，物を注視することや手もとを注視することは達成された。